

熊本空港脱炭素化推進計画(概要)

1. 基本的な事項

○空港の特徴

・熊本空港は熊本市中心部から東へ17km、標高193mの高遊原台地に位置し、周辺にはカルデラ山の阿蘇山や様々な泉質の温泉がある

・2021年度の乗降客数は135万人(国内のみ)、航空貨物は4,400トン(国内のみ)、着陸回数は17,876回(国内のみ)

○空港脱炭素化に向けた方針

・旅客ターミナルビル、庁舎等において、高効率空調機器への更新、照明、灯火のLED化等の省エネのほか、再生可能エネルギーの導入などに取り組む

2. 温室効果ガスの排出量

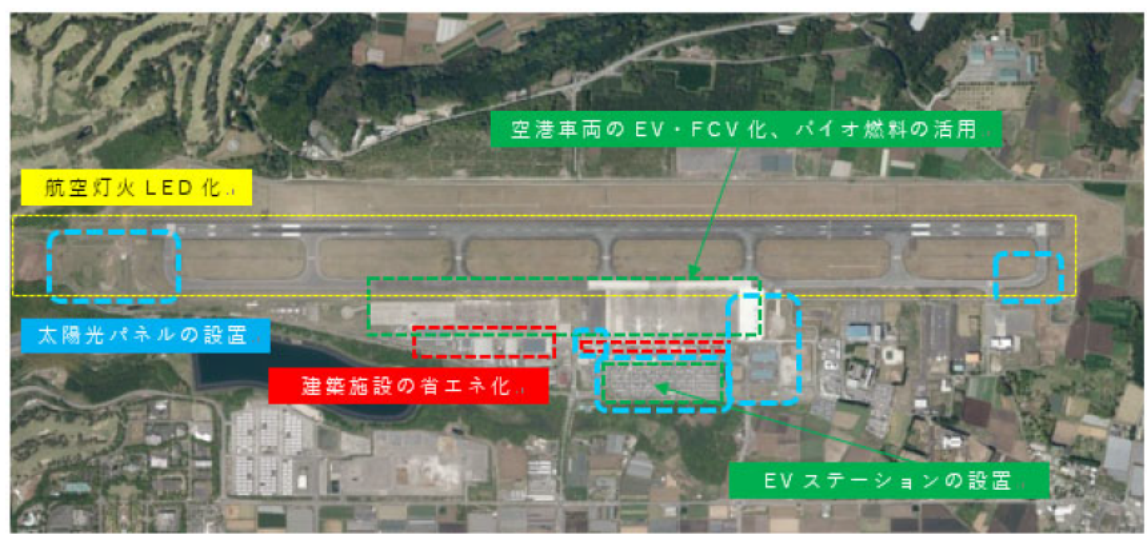
区分	温室効果ガス排出量[t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	5.5千	2.9千	
空港車両	0.36千	0.38千	
空港施設・車両 計	6.2千	3.4千	
(参考)	航空機	4.2千	3.8千
	空港アクセス	8.5千	8.2千

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	カーボンニュートラル
2050年度目標	カーボンニュートラル (クレジット創出0.69千ト)

4. 主な取組

- ・2030年度：ターミナルビル、庁舎の照明LED化、空調の高効率化等による省エネ、太陽光発電の設置を行い再生可能エネルギーを導入
- ・2050年度：太陽光発電設備の拡充を行い、蓄電池の導入を検討



取組の内容及び実施可能性のある箇所

その他の取組

- ・車両の更新時期に合わせEV化に取り組むとともに、共有化について検討を行う
- ・EV化されない車両についてはバイオ燃料の活用により脱炭素化を進める